

〔枕草子三〕むしは

夏むしいとおかしく、らうのうへとびありくいとおかし。

〔古今和歌集十一〕

夏虫のみをいたづらになす事もひとつ思ひによりて成けり

〔後撰和歌集四〕かつらのみこのほたるをとらへてといひ侍りければわらはのかざみのそでに

つゝみて、

つゝめどもかくれぬものは夏虫の身よりあまれるおもひなりけり、

〔後撰和歌集四〕だいしらす

八重葎えげきやどには夏虫の聲より外にとふ人もなし

〔藻鹽草十二〕蚊

夏虫のこゑ蚊也。

〔新撰字鏡下〕蟠扶園反曲也、委也、鼠具虫也、屈也、爲臚字、志自万留、和太万留。

〔倭名類聚抄十九〕蟠音煩、訓和太加末流。野王按、蟠龍蛇臥貌也。

〔箋注倭名類聚抄八〕按今本玉篇云、蟠扶元切、鼠婦蟲、又步安切、大也、紆廻而轉曲也。○中按說文、

蟠鼠婦也、假借爲蟠臥字、其實蟠臥宜用般字、般、旋也、方言云、未陞天龍、謂之蟠龍、

〔倭訓栞前編四十二〕わだかまる姦字、又蟠をよめり、曲屈ワタカマレの義成べし、まる反む也、よて俗に私曲

の意にもいへり、○中略木をわだかめるなどいふは盤ハシをよめり、

〔倭名類聚抄十九〕蚊行音岐、訓波布。唐韻云、蚊音岐、訓波布。虫行也、

〔箋注倭名類聚抄八〕說文蚊、行也、文選注引徐行也、詩小弁、鹿斯之奔、維足伎々、伎々本又作跋、毛

傳云、舒貌、鄭箋云、伎々然舒者、留其羣也、伎跋皆假借字、

よみ人しらす